

# 支援センターたより No.3

2020年3月23日

発行:太平洋核被災支援センター

<http://bikini-kakuhisai.jst55.com>

事務局 宿毛市山奈町芳奈2779-2

山下正寿 Tel・Fax 0880-66-1763

<masatosi.sky@orange.zero.jp>



3月1日、愛吉さんとすずさんの墓前で池田さんの逝去とバラのお故郷帰りを報告（写真提供：粕谷たか子氏）

新型コロナの影響で、皆さん勝手の悪い日常をお過ごしのことと思います。

さて、今年の3. 1 ビキニデー全国大会（静岡）は中止となり、小規模な墓前祭が行われたことをご存知と思います。その大会で報告される予定だった、間間医師と遺族の下本さんお二人の原稿をいただきましたので、紙上で発表させていただきます。

## 3.1 ビキニデー集会への報告

ビキニ被災事件静岡県調査研究会代表 間間 元

昨年の9月30日、1954年の水爆実験で汚染されたビキニ海域でマグロ漁に従事し、その後がんなどの病気に罹った高知と宮城の元マグロ漁船員とその遺族11名の船員労災保険の申請を社会保険審査会が却下しました。今、申請者のうち高知の9名の元船員と遺族が、労災と認めなかった船員保険部の決定の取り消しを求めて、高知地方裁判所に提訴しようとしています。

これら元船員が船員労災保険を申請したのは、当時のビキニ海域での被ばくがマグロ漁の最中に生じた被ばくであったこと、つまり業務中の被ばくであるということ、そしてその後元漁船員の身の上で起こった

健康上の異変、がんにかかったり心臓病にかかったりしたことが放射線被ばくの影響を受けていたのではないかという科学的根拠があったからです。

私はこれまで原爆被爆者の原爆症認定訴訟を支援する医師団の一員として長年関わってきました。またこの間に第五福竜丸元乗組員の肝臓病の労災保険申請にも関わってきました。この問題では、社会保険審査会で労災支給を認めるという、逆転勝利採決を得ています。

またこうした活動の縁で、旧ソ連の核実験場であったカザフスタンや、ビキニ環礁のあるマーシャル諸島の住民の健康調査にも参加させていただきました。そこで核実験後の被ばくによる住民の健康被害や生活被害の状況を知ることができました。

こうした経験から、元漁船員がかかった病気がビキニ水爆実験からの放射線被ばくによって影響を受けていたという科学的な根拠があると考え、労災申請に全面的に協力してきました。

今回元漁船員の労災申請が却下された理由は、その裏には船員保険の所轄官庁である厚労省の意向があると思われるのですが、ビキニで業務上の被ばくをしたという事実を認めながら、元漁船員の受けた被ばくは数ミリシーベルトという僅かな線量なので健康上の障害をもたらすことはない、ということに尽きます。

そしてその被ばく線量の推定根拠となったのは、当時の水爆実験の当事者である米国原子力委員会の調査報告です。この調査は、当時の米軍が実験直後のビキニの周辺海域を調査して推定したというのではなく、ビキニ核実験の放射能調査のために事前に設置していた北太平洋の中のわずか10カ所の島々のモニタリングポストに置かれたガムテープに、大気から降下し吸着した放射能を測定したというものです。なんとその報告書自体が、この測定はガムテープが激しいスコールを浴びていて過小評価になっている欠陥が

あると書いているほどなのです。漁船員には空からの雨や降下物による被ばくがあったのはもちろんですが、汚染された海水のしぶきや漁獲されたマグロ類による船内被ばくも大きく関与していますが、このことは全く無視されています。何よりも核実験後の放射能雲が帯状に流れ、ホットスポットを作って船上を通過する可能性もあり、第五福竜丸はその典型例です。マーシャル諸島の島の土壌調査でもホットスポットがあることが確認されています。

私たちは広島大学の専門家グループの協力を得て、元船員に協力していただいて染色体や抜けた歯の放射線量の測定を行い、染色体では平均 90 ミリシーベルト、歯ではなんと 300 ミリシーベルト前後の被ばく線量があることが証明されました。

またそれ以前から高知県では、幡多高校生平和ゼミナールなど高校生、教師、市民の共同の力で数百人にのぼるビキニ被災元船員の健康調査が行われてきていました。その結果を一口に言うならば、マグロ漁船の漁師は早死が多い、それもがんが多い、ということです。

ビキニ事件は、米ソ冷戦の中で核兵器開発に走る米国に追従した日本政府により、わずか 10 ヶ月後の政治決着となり、第五福竜丸の乗組員への見舞金と全国の漁船のマグロ廃棄損失補償金が支払われ、この事件に関わる一切の政治的、社会的対応が打ち切られました。その結果、延べ 900 隻に上る被ばくしたマグロ漁船の船員への健康調査や健康診断の道が閉ざされてしまいました。

ここが、ビキニ事件がきっかけとなって被爆者の救済運動がもり上がり、3 年後の 1957 年には原爆医療法が成立し、以来、今日の被爆者の援護に関する法律によって支えられている原爆被爆者の処遇との大きな違いになりました。

ところで、今提起されている核兵器禁止条約第 6 条には、締結国による「被災者に対する援助及び環境の回復」がうたわれています。私はそれがマーシャル諸島の島民を含め、ビキニ被災者の人権回復の宣言になると思っています。

これから始まろうとしている高知の船員労災認定訴訟が、この核兵器禁止条約批准運動と一体のものとして、全国のみなさんのご支援で取り組まれますようお願いし、私の報告を終わります。



すずさんから幡多ゼミがもらい、高知県で育て、2019 年故郷帰りの愛吉・すずのバラ（写真提供：粕谷たか子）

## ビキニ核被災船員遺族の想い

「3・1ビキニデー」発言予定原稿

下本節子

高知の下本節子です

高知県室戸の出身です。

父は室戸のマグロ漁船で働いていた 1954 年 3 月、31 才の時、ビキニ水爆実験で被ばく、60 才で胃ガンの手術、78 才の時胆管ガンで他界しました。

高知県のビキニ核被災者と遺族は 2016 年 2 月に船員の「労災保険」を申請、5 月には 60 年もの間被災資料を隠していた国の責任を問う「国賠訴訟」へと両足を踏み出しました!!

国賠訴訟の結果は一審二審とも「政府が資料を隠していた」という訴えは棄却されました。

高松高裁の判決では「国が意図的に隠すとしたら、資料を廃棄していたはず」「廃棄してないから、意図的に隠したと言えない」というものでした。

が、しかし、「船員の被ばくは否定出来ない。救済に向けて立法院や行政府で一層の検討が求められる。」という内容が含まれていました。

船員保険申請の結果はアメリカ側のデータをもとにした「有識者会議」の報告が優先されて、「健康被害を与える程の線量ではなかった。」という理由で不払いが決定しました。

私は何人かの遺族の方から亡くなった船員の事を聞くことができました。1954 年室戸水産高校の実習船で被ばくし同年の 12 月に再生不良性貧血で急死した 20 歳の谷脇正康さんの親戚の方からは、「お葬式の時、

お母さんは正康さんのお棺の中に入って泣き叫んでいた」という辛い記憶を。

宇佐の浜崎さんという方の弟さんからは「血液の病気で、近所の人たちが輸血に協力してくれたけれど助からなくて、婚約者もいたけれど結婚できなかった。」ことや、お母さんに「船で光を見た」と話したことなどを教えてもらいました。船員手帳は残っていません。

「ビキニ核被災ノート」の取材でも何人かのお話を聞き取りしました。ほとんどの人が血液の病気やガンで亡くなっています。

労災の申請をしたのは 11 人ですが、私たちの背後には、何も言うことが出来ない沢山の被害者がいます。そんな沢山の被害者がいるにもかかわらず「健康に影響する線量ではなかった」とする船員保険の回答には、本当に腹が立ちました。

2018 年 1 月 埼玉の社会保険審査会に不服申し立てに行った時は、「(申請者に) 直接会って聞き取りすべきではないですか？」と土佐のハチキンパワーが炸裂しました。

2019 年 5 月 厚労省に行った時は、数名の参与の方から、「労災を認めるべきではないか」「被災者の歯や



第 3 回高松控訴審 入廷する右から 3 人目が下本さん

(写真提供：岡村啓佐氏)

血液検査の最新のデーターを採用すべきではないか？」といった発言がなされました。

しかし、認められませんでした。

私たちは、国賠の方は最高裁に上告せず、「労災訴訟」に切り替えることにしました。今年 3 月 30 日高知地裁に提訴します。今回は 8 人の弁護士さんたちが協力してくれます。

新しい展開です。

立ち止まらない高知の私たちをどうか応援して下さい。

1954年3月1日、静岡県焼津の遠洋マグロ漁船第五福電丸がビキニ環礁で米国の水爆実験に遭遇、乗組員全員が被ばくし、無線長の久保山愛吉さんが亡くなったことは「ビキニ事件」として知られています。しかし、被災船員は第五福電丸だけではなく、高知県の漁船も数多く含まれていました。この事実を子どもたちに伝えようと、高知の現職・退職教員9名で作ったのが、この紙芝居「ビキニの海のねがい」です。

原画は高知県美術家協会会長の森本忠彦氏によるものです。

#### ■あらすじ

第五福電丸事件をきっかけに、反核・平和の運動が全国に広がった。その30年後、高知の高校生たちは、地域調査で被ばくの被害に苦しむ多くの船員たちがいることを発掘する。

被ばくした船員たちのこと・・・長崎とビキニで被ばくした藤井節弥さん、新生丸の船員たち、2回の実験に遭遇した井上さん、歯から多量の被ばくがわかった除本さん、死の灰をあびた桑野さん、父の死を無駄にしたいけないと活動する娘の下本さん。

この世に核があるかぎり、人の苦しみは消えることはないだろう。だから、世界に広がる海のようにみんなの力で世界をつなごう。



2019.12.12のビキニ被災国賠訴訟高裁判決を直前に、他界した原告団長の増本和馬さんの生前最後の証言映像です。

(2019.10月収録)

紙芝居 ビキニの海の願い



DVD版 紙芝居  
「ビキニの海の願い」

ビキニの海のできごとを  
子どもたちに語り伝えたい

太平洋核被災支援センター <http://bikini-kakuhisai.jet55.com>